

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームつつじⅡ(第二ユニット)	評価実施年月日	平成21年11月26日～平成22年1月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月23日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		<p>地域密着型サービスとしての意義や役割を考えていく内容で、作り上げています。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>社員研修では、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、それぞれの考えをレポートで提出してもらっています。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>今後も、見学時や入居時の説明を行うことで、事業所の理念を理解して頂けるよう取り組んでいきます。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>近隣の方々には、職員から声をかけ挨拶を行うようにしています。近所の方が参加できる行事などを工夫し、さらに親しみある関係ができればと考えています。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>ウエスの寄付のために、たくさんの地域の方に来ていただきました。今後は、地域の子供や近隣住民との交流をさらに深め、行事以外の日常的な付き合いもできるようにしていきたいと思っています。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>今後は、グループホームの特性を生かして、認知症の勉強会など企画していきたいと思っています。また、地域の方から気軽に、介護相談が持ち込まれるような関わりをしていきたいと思っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員にも自己評価を記入してもらい、外部評価報告書に基づき、職員会議で話し合うようにしています。外部評価後の足りない部分については、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいます。</p>	○	定期的に改善が必要な問題等を話し合う機会を設け、より良いホーム作りに努めたいと思います。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回行っており、家族、地域の方々にサービスや生活状況を報告しています。毎回、意見交換を行い、検討事項は次回の運営推進会議にて結果等を報告しています。</p>	○	運営推進会議では、自己評価や外部評価について確認する時間を作り、改善に向けた取り組みを伝えています。今後も意見交換を行い、サービスの向上に活かせるようにしていきます。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>小樽市の開催する勉強会やグループホーム協議会には、積極的に参加しています。</p>	○	今後は、市町村担当との関係作りを行い、連携を深めていきたいと思います。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者が権利擁護や成年後見制度について外部の研修を受けています。また、社内研修として、成年後見制度を取り上げて学んでいます。</p>	○	今後は社内研修に『権利擁護』を取り込み、職員が学ぶ機会を作りたいと思います。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修会があれば交代で出来るだけ参加しています。定期的に社内研修を行い、職員が学ぶ機会をつくれるように努めています。</p>	○	今後も、外部研修に参加したり、社内研修を定期的に行い、虐待防止について職員全員で学んでいきたいと思っています。また、事業所内で虐待が見過ごされる事が無いよう取り組んでいきます。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約前に、利用者や家族に十分に説明を行っています。契約後も不安や疑問点がないか随時確認を行い、利用者、家族と話し合う機会を作っています。</p>		今後も十分な説明を行い、利用者や家族の不安や疑問について対応していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話にて意見や苦情、不安に思っていることを都度伺うようにしています。家族と相談しながら、色々な問題を解決できるように努め、日々の生活に活かしています。		家族には、面会時や電話にて意見や要望を確認しています。利用者には日常生活の中で、意見や要望を伺う様にしています。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話や面会時の他に、2ヶ月に1回近況報告を郵送し、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えています。また、面会後は、職員が家族を玄関まで送るようにして、利用者の前では話しにくい、報告や相談をしています。職員の異動についても、面会時や電話等で説明しています。お小遣いの使用状況等は、定期的に手紙で報告しています。		今後も、それぞれの家族にあった対応を行っていきます。面会時には、利用者が作った作品を見ていただいたり、ホームでの過ごし方もお話をしています。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口は、入居時に重要事項説明書等で説明しています。家族から頂いた苦情等については、苦情報告書に記入をし、社内周知徹底するようにしています。家族が気軽に意見などを言える雰囲気作りを心掛けています。	○	家族が気軽に職員に話せるよう、日頃からコミュニケーションを大切に、事業所運営に反映させたいと思います。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は、フロア会議などで聞くようにしています。運営者、管理者は、内容を受け止め運営に反映させていきたいと思っています。		月に1回のフロア会議で、職員からの意見を聞く機会を設けています。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	事前に分るレクリエーションなどの場合は、予め職員の配置を多くしています。急な受診等の場合は、職員間で調整したり、他のユニットの応援を頼むようにしています。		事務所には看護師の他に、ヘルパー資格を持つ事務職員もおり、柔軟な勤務調整ができる体制を作っています。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日頃からユニット間の交流を行い、職員の異動時に利用者が不安を感じない様に配慮しています。また、異動がある場合は、管理者や職員がいつも以上に関わりをもつようにしています。		職員の異動による不安を解消できるように、異動は最小限に抑える様にしています。異動の直後は、利用者との関わりの時間を多めに持ち、話をよく聴くようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>年間で研修計画をたて、社内研修を行ってます。職員の能力、経験に応じて社外研修にも参加する取り組みをしています。また、職員が資格取得を目指すように、有資格者が勉強方法についてのアドバイスをしたりしています。</p>	○	<p>今後も社外、社内研修の機会を増やし、職員のスキルアップに努めたいと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市内外のグループホームへの見学を行っています。また、グループホーム協議会へ参加し、サービスの質を向上できるように努めています。</p>	○	<p>道内の他のグループホームの見学を行い、施設運営に活かしています。今後も、他施設と交流を持ち、サービスの質を向上させる為に意見交換をする場を持ちたいと思います。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>会議や社内研修などを利用し、職員同士が交流する機会を作っています。日頃より、気軽に相談したり、話せる雰囲気作りをしています。</p>		<p>職員同士が、話し合ったり相談できる雰囲気作りを今後も行っていききたいと思います。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者・管理者は、職員に対し積極的に声かけを行い、職員の勤務状況などを把握する様になっています。また、職員が資格取得を目指し、スキルアップできるように支援しています。</p>		<p>今後も職員の努力や実績、勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持ち、仕事にやりがいもてるように支援していきます。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居の際は、入居判定前に必ず利用者と面談を行い、利用者本人の意見や意向を伺うようにしています。また、サービス利用中も継続的に利用者の意見や意向を確認し、利用者が希望している生活に近づけられるように努力しています。</p>		<p>自分の意見や意向をはっきり伝えられない利用者には、言葉だけではなく表情などから気持ちを汲み取るように努力しています。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前の相談から、家族の置かれている状況や悩みについて傾聴し、解決方法を一緒に考えるようにしています。</p>		<p>相談時から、利用者や家族の問題や希望を傾聴することで、サービス開始時の不安の軽減を図っています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時は、安易にホーム入所と決め付けず、利用者が必要なサービスを利用できるよう対応しています。必要であれば、他サービスへの紹介等も行っています。		相談時に、利用者や家族の話を傾聴し、ホーム入所が問題解決につながらない場合は、話し合いの中で他のサービスをお薦めする場合があります。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の際は、基本的に、家族だけでなく利用者にも事業所の見学をしていただくようにし、利用者が納得した上で入居判定をするようにしています。利用者が見学ができない場合は、管理者や職員が事前に利用者に会い、ホームの雰囲気を説明しています。利用者や家族が迷っている時は、何回か体験利用を重ねる場合もあります。		入居後は、職員が積極的に関わり、他の利用者との関係を取り持ったり、不安なく過ごせるように援助しています。また、家族と相談しながら、できるだけ慣れ親しんだ家具や食器を持ってきていただいたり、家族の面会を増やしていただくなど工夫し、利用者の不安を軽減するようにしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に家事を行ったり、レクリエーションをすることで、利用者の好きなことや得意なことを把握するようにしています。、職員が教えてもらったり、手伝ってもらえる機会を作って、利用者支えあう関係を築いています。		料理や縫い物などを利用者から教えていただきながら、利用者の自信の回復につなげています。今後も共に学び、共に支えあう関係を継続し、その人らしい生活が送れるように支援していきます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者に関する事は、ホームだけの問題とせず、何でも家族に相談し、一緒に考えるようにしています。職員と家族が意見を出し合うことで、より利用者にあったサービスを選択するようにしています。		夏祭りなどのホームの催しに家族も参加して頂き、利用者ご家族と一緒に過ごす機会を作り、家族と共に利用者を支えていく関係を築いています。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの生活歴などを確認したり、随時家族に確認を行い、家族関係を良好に保てるように支援しています。		利用者との関係を把握することで、連絡調整や相談などがスムーズに進むようにしています。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友達・知人との面会や、ホーム入所前からの病院の受診などを重視し、可能な限り入居後も継続できるよう工夫しています。		今後も出来る限り、利用者の希望に沿って、家族のご協力のもと支援を行っていきます。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の個々の生活観を尊重しながら、職員が間に入り、同じ趣味を持つ方や性格が合う方などを取り持つなどし、利用者同士の関わりを作るようにしています。また、相性が良くない利用者同士の衝突を防ぐなどの工夫を行い、利用者全員が穏やかに過ごせるようにしています。		性格や価値観の違いはありますが、それぞれの個性を生かし、大きな家族としてユニットをまとめていきたいと思っています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所時は、退所後の住まいやサービス利用について確認するようにし、何かあればいつでも相談できる旨説明しています。		退所してからも、利用者や家族が気軽に遊びに来られるような良い関係を作りたいと思っています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の起床・就寝時刻、食事内容・好き嫌い、趣味などの生活状況を事前に把握し、サービス提供時の参考にしていきます。また、随時利用者に確認を行い、利用者本位な生活ができるように工夫しています。		一人ひとりが習慣や自分の生活を尊重されるよう、職員間で話し合いを行ない、利用者本位の生活を守るようにしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ホーム入所時より、利用者の生活歴を十分に把握し、サービス提供に生かすようにしています。		より良いサービス提供を行なうため、入居中も情報収集を行い、職員全員が把握するようにしています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の言動、バイタル測定、食事摂取の量などの把握を行い、詳細な記録を残すようにしています。状態については、申し送りなどの際に職員間で共有するようにしています。		利用者の健康状態や心理状態の変化を把握し、適切な対応ができ、サービス提供が円滑に行えるようにしています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は利用者の意向を念頭に置き、利用者個々の状態、特徴、ニーズを考慮した具体的な計画を作成しています。本人、家族、職員が定期的に話し合い、随時サービスの変更を行っています。		本人や家族からの聞き取りや担当者会議などで、意見やアイデアを出してもらい、内容を検討してケアプランに反映させるようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護支援専門員の監理の下、介護計画の見直し時には担当者会議とモニタリングを行い、現状に即した計画作成を行っています。		介護計画の見直しについては、本人や家族の意向も確認し、意向を取り入れたプラン作成を行っています。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の個々の様子は介護記録に記入しています。職員間の伝達は口頭と申し送りノートを使い、情報の共有に努めています。介護記録などの情報を基に介護計画の見直しを行っています。		今後も記録の充実に努め、利用者の状態にあった介護計画を作成していきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者の希望による訪問内容の利用や、家族が付き添えない場合の通院介助など必要に応じて対応しています。また、家族が宿泊をご希望される場合は、利用者の居室の他、ゲストルームも準備しています。	○	利用者の必要物品の買物などは行なっていますが、個別の買い物の付き添いなどの特別な外出などもできるよう検討していきたいです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方に運営推進会議に参加していただき、ホーム運営に対する意見交換を行なっています。地域の小学校の学習発表会や運動会などに利用者も参加しています。また、幼稚園の生徒たちの歌や踊りの披露やボランティアによる歌会や茶会、指圧などの協力をいただいています。		ボランティアによるお茶会・歌会・指圧等は利用者からの評判もよく、今後も継続していきたいと思っています。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時には、地域の連絡協議会や居宅サービス事業者の方々の協力を得る用意はできていますが、今のところ他のサービスの利用の希望は出ていません。		近くの老人福祉施設の行事等にホームも参加させていただいています。今後、利用者からのご希望や必要性がでできた場合は、他サービスの利用も援助していきたいと思っています。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域の包括支援センターには、運営推進会議に参加していただいています。必要時には、協働できる関係作りをしています。		今後、権利擁護等の必要性に応じて、地域包括支援センターに相談したいと思っています。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	契約時に、本人・家族と相談し、入居後のかかりつけ医を決めていただいています。本人や家族の希望がある場合は、ホームの協力医(内科・整形・精神科・歯科)も紹介しています。日頃からかかりつけ医との連絡体制を密にし、何かあった時はすぐに対応していただけるような関係を築いています。		医師から受けた指示や病状の説明などは、随時家族に説明を行っています。必要があれば、受診(往診)時に家族にも立ち会っていただき、医師と直接話をして頂くようにしています。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	家族や主治医に状態の相談を行った上で、診療が必要である場合には主治医より専門医の紹介をいただいています。認知症の進行や利用者の不安な状態を見逃さないように、適切な診断や治療を受けられるようにしています。		かかりつけ医が認知症専門医なので、随時相談をしています。必要であれば、他の病院への紹介もいただいています。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	他事業所との兼務ではありますが、看護職員がおり、利用者の健康管理や職員からの相談に対応してくれています。また、利用者がかかっている病院の看護師とは日ごろから気軽に相談できる関係を築いています。		看護師には、健康状態に関する相談にのっていただいたり、医師との橋渡しをしていただいています。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した時は、定期的に看護師長や相談員、医師と連絡をとり、利用者の病状の把握を行なうようにしています。利用者の状態に合わせて、ホームの態勢を整えることで、早期退院できるようにしています。		今後も、入院中の情報交換を医療機関と頻繁に行い、利用者の早期退院や不安軽減に努めていきたいです。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居の際に家族に話をするようにしています。また、入居中に利用者の状態の悪化が予想される場合は、早い段階から主治医、家族と十分話し合いをして方針を決めるようにしています。	○	利用者の状態や必要に応じて、その方にあった機関の利用を支援しています。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の利用者に対しては、本人、家族の意向を十分に確認し、主治医とも相談しながら一番適した環境で安心して過ごせるように支援しています。	○	今後も、利用者や家族が安心し、日々をより良く暮らせるように、かかりつけ医の協力を得ながら、支援していきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住替えが行なわれる場合は、家族や利用者、住替え先の関係者などと十分な情報交換や話し合いを行っています。利用者の負担が軽減され、安心して生活ができるように支援を行ないます。</p>		<p>利用者の負担を一番に考え、話を進めるようにしています。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者様の人格を尊重し、尊敬の念を忘れないよう心掛けています。言葉かけは敬語で行うようにしています。</p>		<p>入居者は人生の先輩として尊重し、個人の記録の取り扱いについては、十分配慮をしています。また、職員間で、申し送りをする場合も、個人名ではなく、部屋番号で表すなどの配慮を行なっています。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の話を傾聴し、利用者がしたいことを自分で決められるような声かけを行なうようにしています。利用者が自ら選択できることで、自身の回復につながるように支援しています。</p>		<p>利用者が答えやすいような質問方法や話し方を工夫するようにしています。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>決まった日課はありますが、利用者が気分や体調により、予定通りに行なえなくても、無理強いをしないようにしています。利用者の気分や体調などを考えながら、一日を過ごせるように支援しています。</p>		<p>利用者一人ひとりのペースに職員が合わせるようにしています。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着替えをする時は、利用者と一緒に服を選んでいきます。利用者や家族から希望がある場合は、望みの理容室や美容室に行けるように努めています。また、髪を切るときは、どういう髪型にしたいかご本人に決めてもらうようにしています。</p>		<p>今後も、季節や外気温に合っているかなどを確認しながら、利用者自身の個性のある身だしなみを支援していききたいと思います。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と職員が同じ食卓に座り、楽しく食事をしています。何が食べたいかなど希望をお聞きし、ある食材を工夫して調理をしています。季節や行事にあったメニューも企画し、食事を通して季節を感じられるように工夫をしています。食事の準備、後始末は、利用者の能力に合わせて、出来る範囲で楽しく行っていただいています。</p>		<p>食事の時間が楽しいものになるように、好き嫌いを考慮して代替のものを提供したり、食べやすく加工するなど工夫をしています。食事中は、事故がないように、嚥下状態や動作の観察を行なっています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の健康状態に考慮しながら、希望にあう好みのものを提供し、楽しみがある生活ができるように支援しています。必要時には、医療機関に相談をしています。		今後も、希望されるものを日常的に楽しんでいただけるように支援していきたいと考えています。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握することで、定期的にトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄ができるよう支援しています。		トイレ誘導を行う時は、声かけなどを工夫して、利用者のプライバシーを尊重するように心がけています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に週2回以上の入浴をしていただくようにしています。利用者の入浴日を限定せず、その都度利用者に声かけを行い、誘うようにしています。入浴拒否が続く場合は、身体を拭いていただいたり、シャワーで簡単に身体を洗うだけにするなど個別に対応しています。また、入浴時はプライバシーに、十分配慮するようにしています。		個々のペースや好みに合わせ、ゆったりリラックスできるように心がけています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動量や体調を把握し、安心してゆっくり休むことが出来るよう支援しています。睡眠状態を確認するために、定期的に巡視を行っています。		職員間で申し送りを行い、睡眠パターンを十分把握し、日中の活動につなげています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居時に確認した生活歴や趣味を参考にして、個々にあった楽しみを提供したり、役割を支援しています。	○	利用者からの要望を確認することで、より楽しく生き生きとした生活ができるように支援していきたいと思えます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則的には、利用者はお金の管理は行なっていませんが、必要がある場合は、家族と相談の上、現金の所持をしていただいています。事務所に、個々のお小遣いをお預かりし、必要な物があれば、ご家族に確認を取りながら購入をしています。	○	利用者が、お金を持って買い物に行ける機会を増やしていきたいと思えます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>暖かい時期には、利用者に声かけを行い、ホーム周辺の散歩に出かけるようにしています。また、家族の協力の下で、外食やドライブなどの機会を作り、利用者の気分転換を図るようにしています。</p>		<p>今後も、積極的に外に出る機会を作るよう支援していきます。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>他者との交流や、四季を肌で感じて頂くために、お花見や紅葉狩り企画しています。また、近くの小学校の行事などにも参加しています。</p>		<p>家族も一緒に参加できるような外出の機会を増やしていきたいと思っています。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p> <p>フロアにある電話を使用し、家族や知人の方に気軽に電話できる環境を作っています。家族や知人からの手紙はご本人にお渡しし、ご希望があれば職員が読んで聞かせるようにしています。返事を出したいと希望があった時は、進んで支援しています。</p>		<p>電話や手紙は、利用者にとって楽しみの一つとなっています。今後も積極的に支援していきます。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>面会者が来られた時は、利用者の居室にお茶をお持ちし、ゆっくり過ごして頂けるようにしています。面会者が気兼ねなく訪問して下さるように、心地よい雰囲気作りに努めています。</p>		<p>面会者については、入居の際に家族に確認を行い、トラブルがないよう努めています。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束が禁止であることや具体的な行為について、職員が理解できるように、社内で勉強会を開いています。</p>		<p>積極的に勉強会を開き、職員が利用者の自尊心や安全を守る支援ができるように努めています。</p>
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中は、玄関に鍵を掛けないことになっています。必要と思われる時は、「身体拘束廃止推進委員会」にて、施錠を検討します。また、居室には、基本的に鍵はついていませんが、利用者の希望がある場合は、内側から掛けられる鍵を設置するようにしています。夜間は防犯のために玄関に施錠をしています。</p>		<p>今後も、鍵をかけないケアを実践していきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の体調の変化や心の状態などを観察し、状態を常に把握できるように、職員間で申し送りをするようにしています。		利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者の安全確認を行なっています。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品については、基本的には職員が保管・管理をしています。説明しても、なかなか納得されず、危険がほとんどないと判断される場合は、全職員が把握した上で、利用者が保管している場合もあります。		利用者の状態に合わせて、注意が必要な物品の保管や管理を実行しています。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のため、定期的に研修を行い、職員の意識を高めるようにしています。モニタリング時などに、利用者一人ひとりの危険予測を行い、事前に対策をたてるようにしています。		事故防止のため、危険予測のほか、緊急時の連絡体制を整備しています。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生時に、焦らずに適切な対応ができるように、応急手当の講習などを定期的に行なっています。		全ての職員が適切に対応できるように、今後も研修を行なっていきます。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画に基づき、安全に避難できる体制を整え、定期的に避難訓練を行なっています。		緊急時に利用者がスムーズに避難できる方法を身につけられるように、避難訓練を行なっています。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の身体状態の変化や予想されるリスクについては、適宜家族に報告しています。利用者が心地よい環境で生活ができるように、リスク対策などを一緒に考えていただいています。		今後も、対応策などを家族と一緒に考え、利用者が心地よく暮らせるよう支援していきます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、血圧、脈拍、体温を測定をしています。その他、会話、表情から体調の変化を早く発見できるように観察を行なっています。また、入浴時には見えない所に、傷や痣がないか観察するようにしています。異変を発見した場合は、すぐに医療機関に電話で相談し、指示があれば受診を行なっています。		日常生活で異変に気づくこと、職員間で連絡や相談を密にすることで、早期発見、早期対応をしています。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬が変更になった時は、薬の説明書にて、副作用や用法・用量を把握するようにしています。処方された際に、薬に間違いがないか確認した後で、朝・昼・夕などに分け、日付を記入し、利用者別の箱に入れてあります。服用の際は、日付、名前等を読み上げ確認しています。		利用者が、安全に服用できるように、用法や用量を理解することや確認することを続けていきます。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者の排便の有無を確認し、排便表を個別に毎日記入しています。日頃より、飲食物の工夫や水分量のチェックの他、利用者に運動の働きかけをしています。		便秘が続く場合は、主治医に相談し、指示を受けています。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時と毎食後に歯みがき又はうがいを行なっていただいています。義歯の方は夕食後に預かり、消毒し、清潔に使用できるようにしています。		口腔状態のチェックを定期的に行なっています。必要があれば、歯科衛生士資格を持っている職員に確認してもらうこともあります。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は個別に把握し、介護記録に記入しています。むせが見られる方、歯のない方に合わせて刻み食やおかゆ、ミキサー食にしたり、水分にはとろみをつけるなど工夫をしています。		嚥下状態の低下を防ぐ為、毎日、口腔体操を行なっています。定時に水分をお勧めし、水分の種類にも変化をつけて飽きが来ないように工夫しています。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員・利用者共に、毎年インフルエンザの予防接種を受けています。感染予防対策として、次亜塩素酸ナトリウムで清掃、消毒を行なっています。流行時は面会者にも、手洗いとマスクの使用をお願いしています。また、昼食後には毎日、お茶でうがいをしています。		感染症予防の為、利用者・職員共に、外出後のうがい・手洗いを実行しています。運営推進会議においても、インフルエンザの予防について、お話させていただいています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所は常に清潔に使用し、調理器具は毎日消毒をしています。冷蔵庫の整理・消毒は、週1回行っています。食材を使用する際は、鮮度の確認をし、処理を手早く行なっています。</p>		<p>食材を扱う際には、手洗い、消毒を徹底し、食品加工用の手袋を使用しています。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関はバリアフリーで出入りしやすくなっています。夏には、花壇に花を植え、観葉植物を配置し、毎日掃除を行なっています。降雪時は、除雪を行い、安心して出入りできるようにしています。</p>		<p>秋・冬にかけて花壇がさみしくなってしまうため、降雪時もイルミネーションなどを配置し、楽しめるように工夫しています。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節を感じられるような飾りを工夫しています。毎日掃除を行い、快適に過ごせるように心がけ、不快な音や光がないように、職員が調整をしています。</p>		<p>今後も、季節感を採り入れて、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫していきます。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共用空間は、利用者が自由に過ごして頂けるように、心掛けています。テレビを観たり、体操やレクリエーションを行なうコミュニケーションの場所になっています。</p>		<p>安心して自由に過ごして頂けるように配慮し、季節感のある空間になるように心掛けています。</p>
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には使い馴れた生活用品を持ち込んでいただき、利用者の好みに応じて居心地よく生活ができるようにしています。</p>		<p>以前から愛用されていた家具や置物、仏壇などを持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるようにしています。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度や湿度は定期的に確認し、調整しています。定期的に、窓や換気扇で換気を行っています。</p>		<p>温度、湿度、換気に気をつけて、利用者が風邪などひかないように注意しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>危険予測を行い、必要などころに手すりの配置がしてあります。床はバリアフリーになっており、利用者の機能低下に対応できるよう配慮しています。必要な方には、椅子に滑り止めマットを敷いて、体幹が保たれるよう工夫しています。</p>	<p>今後も、安全で自立した生活が送れるよう環境づくりに努めていきます。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者のできることで、できないことを把握し、できないことについては職員と一緒に言い、自立に向けての支援を行っています。トイレ、浴室、居室入り口には、分かりやすい表示がしてあります。</p>	<p>利用者の自信の回復を図りながら、自立に向けた支援を今後も行っていきます。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日は、中庭や散策路で過ごせる様になっています。また、花壇や畑を作り、一緒に野菜を収穫したり、散歩時に花を眺めて楽しんでいます。暖かい日は、ホーム喫茶を外で行っています。中庭、散策路は、敷地内のグループホームの利用者と交流する場として活用しています。</p>	<p>中庭は、地域の小学生がお神輿を担いできたり、幼稚園の子供が歌や踊りを披露するステージの役割もあります。冬期は、クリスマスのイルミネーションを飾ったり、『雪あかりの路』のキャンドルを飾るなどして、利用者を楽しんでいただけるよう工夫しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  ①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない  ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 家庭的な雰囲気の中で、利用者や家族の意向を聞きながら、安心して安全に生活できるよう努めています。  
 また、地域の方々の協力を得ながら、地域に密着したグループホーム作りを目指しています。